



大阪万博—時代の変容とSDGs

校長 三村 孝志

2025年の国際博覧会の開催が大阪市に決まりました。私と同年代の人にとっては、多分東京オリンピックとは、1964年のオリンピックのことであり、大阪万博とは、1970年の国際博覧会のことでしょう。2回目があるなどとは想像すらしませんでした。

とりえず慶賀すべき出来事ではあります。1970年は私が11歳のときです。万博に行けませんでした。新潟県出身の歌手三波春夫の「世界の国からこんにちは」は聞いた記憶がありますし、そういえば「月の石」が展示されたことも覚えています。また、岡本太郎の「太陽の塔」もなんかヘンテコな塔だなと思ったことも思い出します。

万博開催の2年後、1972年に田中角栄が『日本列島改造論』を発表し、史上初の新潟県出身の首相となります。また、日中国交回復の記念として、中国から二頭のパンダがやってきたのも1972年でした。

さて、1970年はどのような年であったかを内閣府の消費動向調査によって考えてみましょう。

テレビ本放送開始(1953年)以前、家電の「三種の神器」と言われたのが、洗濯機・冷蔵庫・掃除機(炊飯器を入れる場合もある)です(放送開始後は、洗濯機・冷蔵庫・白黒テレビになります)。みなさんの家にも最新のものがあるでしょう。洗濯機は、1965年は68.5%、1970年は91.4%の普及率です。次に冷蔵庫は、1965年は51.4%、1970年は89.1%の普及率です。最後に掃除機ですが、1965年に32.2%、1970年は68.3%の普及率です。

3Cという言葉もありました。乗用車、クーラー(エア・コンディショナー、エアコン)、カラーテレビです。Car、Cooler、Color televisionの最初のCに注目して、3Cと言われていました。

乗用車は、1970年に22.1%、1975年に41.2%の普及率です。エアコンは、1970年は5.9%、1980年に39.2%、1990年に63.3%となり、60%を超えました。白黒テレビは1968年に96.4%の普及率でした。カラーテレビは、1966年に0.3%、1970年に26.3%、1975年には90.3%の普及率となります。

総務省統計局のデータによると、高等学校への進学率は、1955年に51.5%、1960年に57.7%、1965年に70.7%、1970年に82.1%、90%を超えたのは1974年でした。大学への進学率は、1955年10.1%でしたが、1970年には23.6%、1993年には40%を超え、2005年には、50%を超えました。

国勢調査のデータを調べてみましょう。東京都の人口は、1945年に3,488,282人、1960年に9,683,802人、1965年には、10,869,244人となり、一千万人を超えました。1970年は、11,408,071人です。

各種のデータを調べてみると、東京オリンピック終了後の1965年から、1970年の大阪万博が終わった五年後1975年までの間に、日本社会は大きく変容したようです。核家族化が進み、個人主義が広まり、地域が都市化しました。また、大量消費社会が到来したと考えられます。1974年にはセブンイレブンの第1号店が開店し、1975年には24時間営業が開始されます。私たちが当たり前と思っている営業形態が1975年には始まっていました。その後、バブルを経て、現在、医療・介護・保育・教育において問題が山積しており、エネルギー、貧困や格差など、いまだ解決されていない問題もあります。

2025年大阪・関西万博のめざすものとして、「国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)が達成される社会」があげられています。17の目標が示されています。

「1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリーシップで目標を達成しよう」

国際博覧会の開催を契機に、17の目標を実現するため、日本が世界をリードする存在となることを願ってやみません。また、様々な国内の課題を解決することも望まれます。当然、17の目標は、国内においても達成されなければなりません。